


マツ今井こと今井雅人氏が率いる グローバルインフォ株式会社提供の 『GIweekly』公開開始！

ひまわり証券（東京都港区、代表取締役 北川博文、ひまわりホールディングス株式会社〔ジャスダック 8738〕の100%子会社）は、2011年11月7日より、グローバルインフォ株式会社が提供する「GIweekly」をお客様限定で公開することになりましたのでお知らせします。

「GIweekly」では『先週のマーケットポイント』と題し、指標結果・要人発言から先週の相場状況を振り返るレポートと、『今週のマーケットポイント』と題し、テクニカルコメントや今週の相場見通しレポートの2種類を提供いたします。

ひまわり FX 口座をご開設いただいたお客様であれば、無料ですべてご覧いただくことができます。ぜひ、FX 取引の投資判断の参考にご活用ください。



先週の相場概況

24日 ユーロ圏製造業PMIやサービス部門PMIが市場予想を下回ったことを受けてユーロが売られた。また、10月期は米連邦準備の上昇を背景に投資家がリスクを取りやすくなることから売方からユーロ買いドル売りが優勢に、ドル相場は急上昇した。一方、米株は急落した。

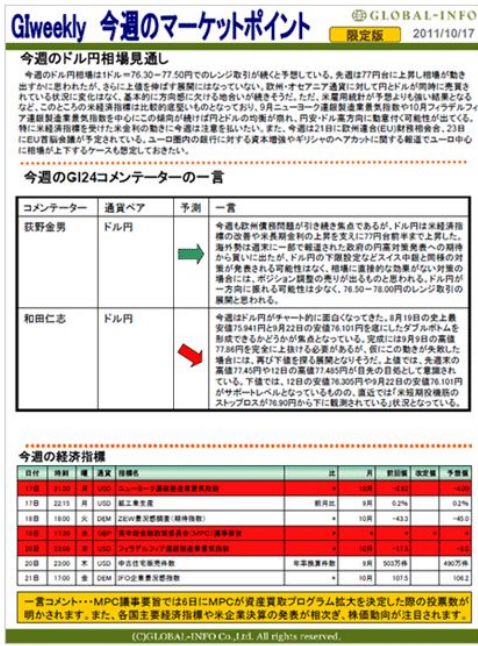
25日 ケースレス—住宅価格指数や消費者信頼感指数など米指標が好転し市場予想を上回ったことで、ドル相場は再び上昇した。一方、米株は急落した。ユーロは21日に発表されたEU財務相理事会が中止になったことなどが懸念され、上値が重かった。

26日 海外投機筋が、日本の介入が行われないことを材料にドル買いを進め、ドル相場は安値を更新した。また、その後は翌日の日銀金融政策決定会合などを前に買い戻しも見られた。ユーロはEFSFに關する報道も影響し、方向感定まらなかった。

27日 EU首脳が危機克服に向けた「包括戦略」で合意したことが好材料で、欧米株相場が大幅に上昇。ユーロは中心に大幅な急落を抑制した。欧米株の急落は、ユーロの急落も抑制した。ユーロは21日に発表されたEU財務相理事会が中止になったことなどが懸念され、上値が重かった。

28日 欧州債務危機に対する包括戦略を受けて前日に急伸したため、ユーロドルは再び上昇し利益確定目的で売りが出た。格付け会社フィッチがギリシャ債の50%のヘアカットはデフォルトイベントであるとの見解を示したことも影響した。

総括 先週のドル相場は神経質な展開だった。21日の海外市場で円高—ドル安が急ピッチで進んだ流れを引き継いで始まったものの、政府・日銀による為替介入への警戒感も強くなり、一歩戻す下落する展開にはならなかった。欧米連合（EU）首脳が危機克服に向けた「包括戦略」で合意したことなどが好材料で、ユーロドルは上昇する方向でドル相場が一時的に急落した。市場では「警戒ムード」が強まっていた。政府・日銀による為替介入がなかったため、投機筋が円買い—ドル買いを進めたことの影響があった。



今週のドル相場見通し

今週のドル相場は1ドル=76.30-77.50円でのレンジ取引が続くと予想している。先週は77円台に上昇し相場が動き出すかに思われたが、さらに上値を伸ばす展開にはなっていない。欧州・オセアニア通貨に対して円ドルが同時に売買されている状態に安心はなく、基本的な方向性には大きな変化はない。また、米債相場が予想よりも高い水準になるなど、このところの米経済指標は比較的堅いものとなっている。9月ユーロ圏—米連邦製造業指数や10月フィラデルフィア連邦製造業指数を中心にこの傾向が続けば円ドルの相場が割れ、円安—ドル高方向に動き出す可能性がある。特に米経済指標を引いた資金利の動きに今週は注意を払いたい。また、今週は21日に欧州連合（EU）財務相理事会、23日にEU首脳会議が予定されている。ユーロ圏内の銀行に対する資本増強やギリシャのヘアカットに関する報道でユーロ中心に相場が上下するケースも想定しておきたい。

今週のG14コメンテーターの一言

コメンテーター	通貨ペア	予測	一言
萩野金男	ドル円	→	今週は欧州債務問題が引き続き焦点であるが、ドル円は米経済指標の改善や米米期金利の上昇を支えに77円台前半まで上昇した。海外勢は週末に一部で報道された政府の円高対策発表への期待から買いに動いたが、ドル円の下値戻しなスペース縮小と米株の売りが懸念される可能性は依然、慎重に高値的な動きは対抗の機会には、ポジション調整の売りが出るものと思われる。ドル円が一方向に振れる可能性は少なく、76.50-78.00円のレンジ取引の展開と見られる。
和田仁志	ドル円	↓	今週はドル円相場がやや弱く動いてきた。8月19日の史上最高安値75.94円と2月22日の安値76.10円を連れたドルボトムを形成できるのかどうか焦点となっている。実況には9月9日の高値77.60円を突破し上値も必要である。直前にこの動きが起きた場合には、再び下値を探る展開となりそうだが、上値では、先週末の高値77.40円や9月21日の高値77.45円が目先の目標として意識されている。下値では、12月の安値76.50円や9月21日の高値76.10円がサポートレベルとなっているものの、直近では「米株買戻しのストップロス」が76.00円から下に観測されている状況となっている。

今週の経済指標

日付	時刻	種別	通貨	指標名	比	月	前月	前年	前四半	前四半	前四半
17日	11:00	米	USD	ユーロ圏—製造業製造業発表数		9月	-1.6%	-1.5%			
17日	22:15	日	USD	純工業生産		前月比	9月	0.2%	0.2%		
18日	18:00	米	EUR	ZEW景況感調査（期待指数）		10月	-43.1	-43.1	-45.0		
18日	11:30	日	USD	実質国内総生産（GDP）—修正済み		9月	-0.1%	-0.1%	-0.1%		
20日	23:00	米	USD	10月フィラデルフィア連邦製造業指数		10月	-1.7%	-1.7%	-1.7%		
20日	23:00	米	USD	米住宅販売件数		9月	50.7%	50.7%	49.0%		
21日	17:00	米	EUR	EU企業業績発表		9月	107.0	107.0	106.2		

一言コメント…MPC議事録では6日にMPCが資産買回プログラム拡大を決定した際の投票数が明らかになります。また、各国主要経済指標や米企業決算の発表が相次ぎ、株動向が注目されます。

※ひまわり FX 取引システム（ひまわり FX WEB）へログイン後、ご覧いただけます。
※ 「GIweekly」の一部をひまわり証券ホームページにて、ご覧いただくこともできます。

ひまわり証券ホームページ <http://sec.himawari-group.co.jp/>

【ひまわり FX における重要事項】

- 外国為替レートの変動やスワップ金利の支払いによりお客様が損失をこうむるリスクがあり、投資元本が保証されるものではありません。
- 取引金額が証拠金の額に比べて大きいため、マーケットの変動率に比べ投資元本の損益変動率が大きく、状況によっては、その損失は証拠金の額だけに限定されません。
取引手数料は、オンライン注文の場合、無料となっています。ただし、電話注文の場合、取引通貨ペアにより1通貨単位当たり最大10ポイントの手数料ポイントを約定価格に織り込み、取引手数料相当額として徴収します。(約定価格に織り込まれるため、外枠の取引手数料としては発生しません。)
- 提示価格及び取引価格にはスプレッドとって売値と買値に差があります。スプレッドは固定ではなく、相場状況により変動し、さらに拡大することがあります。
- 個人のお客様の場合、レギュラー口座およびデイトレ口座の証拠金は時価評価額の4%、シストレ口座の証拠金は証拠金率が4%以上になるように設定します。法人のお客様の場合、レギュラー口座の証拠金は時価評価額の1%、デイトレ口座の証拠金は時価評価額の0.5%、シストレ口座の証拠金は証拠金率が1%以上になるように設定します。また、その証拠金は外国為替レートにより変動します。
- 取引のお申込みの際には、ガイドブック、契約締結前交付書面・口座約款等の取引説明書をよくお読みいただき、仕組みやルールを十分にご理解のうえ、資産に合わせて、お客様ご自身の判断と責任において行っていただきますようお願い申し上げます。
- その他詳細は、[ホームページ](#)にてご確認ください。

ひまわり証券株式会社

関東財務局長（金商）第150号（金融商品取引業）

加入協会：（社）金融先物取引業協会・日本証券業協会・（社）日本証券投資顧問業協会